

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

☆最初のISS構成要素打上げから2090日経過しました

☆第9次長期滞在クルーのISS滞在は112日経過しました

☆ISS動向

第9次長期滞在クルーのゲナディ・パダルカ、マイケル・フィンク両宇宙飛行士は、科学実験、船外活動、定期メンテナンス、そして新しいプログレス補給船(15P)の到着に備えた作業を行いました。

フィンク宇宙飛行士は、発展型超音波実験装置を使用した実験や宇宙加速度測定実験(SAMS)装置のソフトウェアの更新作業を行いました。SAMSは、クルーの活動がISSに搭載されている敏感な微小重力実験装置に対して与える影響について情報を収集する装置です。

ふたりは8月3日に3回目の船外活動を終えました。4時間30分の船外活動で、両宇宙飛行士は、「ズヴェズダ」(ロシアのサービスモジュール)外部の実験装置を交換し、来年ISSに到着する欧州補給機(ATV)のランデブー・ドッキングに必要な機器を取り付けました。4回目の船外活動は、9月上旬に予定されています。

メンテナンス作業としては、「デスティニー」(米国実験棟)の窓のフレキシブルホースをデスティニー内で作業するクルーが傷つけないようにするための保護カバーを取り付けました。

カザフスタンのバイコヌール宇宙基地では、8月11日に打ち上げられる予定のプログレス補給船(15P)の最終準備作業が行われています。15Pでは、約3トンの食料や燃料、水、第9次長期滞在クルーへの補給品の他、第10次長期滞在クルーの衣類や補給品を運ぶ予定です。

15PのISSへのドッキングの様子は8月14日午後1時からNASA TVで生中継される予定です。

NASA TV <http://iss.sfo.jaxa.jp/gallery/video/live/live.ram>

第10次長期滞在クルーは、10月9日にISSに向けて打ち上げられ、第9次長期滞在クルーと交代する予定です。



分離したプログレス補給船(15P)



「ピアース」(ロシアのドッキング室)内でロシア製宇宙服と並ぶパダルカ(左)とフィンク宇宙飛行士(右)

©Energia
打ち上げ準備の進む、プログレス補給船(15P)を搭載したソユーズロケット

“インフォメーション”

☆からだ博にJAXA出展

「みえる・わかる・家族の健康 からだ博」が 8月3日(火)から8日(日)まで東京ビックサイトで開催され、6日間で81,016人が来場しました。「からだ博」にJAXAも出展し、「きぼう」日本実験棟内部を3次元CGで体験しながら、宇宙医学や宇宙での生活の様子を映像で紹介しました。

上映会は毎回立見が出るほどの盛況ぶりで、初めて宇宙ステーションを知って、とても興味を持ったとの声が多く寄せられました。

☆第2回宇宙ステーション教育利用ワークショップ開催

ISSや宇宙開発を小中高大学や地域での教育・学習に取り組み、実践している方々の報告を中心とした第2回宇宙ステーション教育利用ワークショップが8月8日(日)に千葉大学西千葉キャンパスで開催されました。

基調講演では鈴鹿国際大学短期大学部学長である佐治晴夫氏から、地球や人類の根元である宇宙を研究することは人間そのものの研究でもあるという観点で、地球外文明探査の意義などについて話されました。

実践報告ではISSについて「学ぶ」、「話す」、「使う」、「見る」、「創る」をテーマに教諭や学生達からの実際に活動した報告が行われました。

また、展示コーナでは実際に使用した自作の学習教材などが紹介され、関係者達の理科教育・宇宙教育への熱意が感じられる1日でした。



3次元CGによるバーチャル体験



展示コーナ

展示コーナ



基調講演を行う佐治晴夫氏

JAXAの教育プログラムの紹介